


「学ぶ力」	
成果	課題
<ul style="list-style-type: none"> ◇「進んで話し合いに参加したり調べたり、考えを深めたり、課題を解決したりすることを最後まであきらめずにできた」は、90.5%の児童が肯定的な回答をし、自ら学ぼうという意欲をもち学習に取り組んでいる。 ◇「進んで自分の考えを発言したり、自分の考えたことがうまく伝わるよう工夫して発表したり、まとめたりすることができた」は86.8%の児童が肯定的な回答をし、自分の考えをもち、発言することはできている。 ◇個別の学習支援や家庭との協働した学習を進めることで、基礎・基本の定着が図られた。個に応じた指導を充実させることができている。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇1時間・1単元の自分の学びを振り返り、どんな学びがあったかどんな力が身に付いたかを自己評価することで、学びの楽しさを実感できるようにする。 ◇学力テストの結果から、国語では「読むこと」において全国比を下回る傾向にある。国語を中心に、目的に応じて、必要な情報を見付けながら読んだり、登場人物の相互関係や心情に着目し、人物像や物語の全体像を想像したりしながら読む活動の充実を図る。 ◇朝の活動で読書をする。また、授業中に音読をしたり、家庭学習での読書や音読を推進したりしていく。
<p>「学ぶ力」の基盤〈協働を通して磨く 相互承認の感度〉の現状と課題</p> <p>◇札幌市共通指標の「自分が必要とされていると感じる」の相互承認に関連する項目において、18.5%の子どもが否定的な回答をしている。授業や日常の活動で、より一層達成感を得られるような場を設定し、価値付けていく。他の相互承認の項目では、肯定的な回答が多くある。しかし、少数ではあるが否定的な回答も見られるため、今後も相互承認の感度を高める取組をしていく。</p>	

「学ぶ力」の育成のために着目する資質・能力

自ら学び続ける力

	課題探究的な学習の推進 に向けて	自治的な活動の充実 に向けて
取組	<ul style="list-style-type: none"> ◇研究副主題「分かる・できる・楽しい」授業づくり AAR サイクルの Anticipation (見通し) 重視した授業改善 <視点1> 課題を自分事として捉え、探究していくための教材化 <視点2> 課題を自分事として捉え、探究していくための教師の関わり 	<ul style="list-style-type: none"> ◇よりよい学級にするための学級活動の充実 →年間指導計画をもとにした学活 →係活動の実施と振り返り ◇よりよい学校にするための自治的な活動 →委員会活動、ふれあい活動、クラブ活動 ◇自分たちの生活や活動を振り返る場 →あいさつ・廊下歩行の日、キャリアパスポート
	<p>「学ぶ力」の育成の一層の充実を図る ICT の活用について</p> <p>◇個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に向けて、ICT を活用することで学びの質を高め、学ぶ力を育成することを目的に教科等横断的な視点で活用していく。まなびポケットや Google のアプリ等を活用して、学習の習熟を図ったり、学習のまとめを作成したりし、ICT を効果的に活用していく。その中で、ICT 機器の基本的な操作の習得から、プログラミング的思考の育成、情報モラルの充実、情報セキュリティの理解などの情報活用能力の育成にも取り組んでいく。</p>	

<本プログラムの実行に向けて>

